

Rotary International District 2820

下館ロータリークラブ会報

SHIMODATE ROTARY CLUB WEEKLY REPORT 2022-23

第 02626 号 発行日 令和 5 年 3 月 22 日



ジェニファー・ジョーンズ R I 会長

本日のプログラム

外部卓話

茨城ロータリーEクラブ会長 和田龍太様

次週のプログラム 【4月2日(日)】

母子島遊水地

クリーンアップ作戦・花見

会長／潮田 武彦 副会長／早瀬 浩一 幹事／神山 芳子 会長エレクト／宮田 憲一

例会 毎週水曜日 12:30 ダイヤモンドホール (〒308-0847 茨城県筑西市玉戸1053-4 ☎0296-28-8511)

ホームページ <http://www.shimodate-rc.gr.jp> Eメール shimodate@ri2820.jp



前例会報告 第3010回 2023/3/8日(水)

来 訪 者 ようこそ下館RCへ

小澤 瑠衣 様(サクソフォン奏者)

趙 龍 賢(チョウ・ヨンヒョン) 米山奨学生

会 長 挨 拶 潮 田 武 彦 会 長



本日のお客様をご紹介します。サクソ演奏者、小澤瑠衣さんです。小澤さんは13歳よりサクソフォンを始められ、フランスに留学、そして数々の賞を受賞されています。YouTubeなどにも小澤さんの映像があり、事前に拝見させていただきました。本日は小澤さんの演奏を生で聞かせていただけること、そしてサクソの魅力をお聞かせいただけるということで、非常に楽しみに例会に参りました。どうぞよろしくお願いします。

3月のロータリー月間は、「水と衛生月間」となっております。先週、筑西きぬRC会長の久保さんに誘われまして、例会にお伺いさせていただきました。そこで、SDGsの卓話を聞いてまいりました。信金中央金庫 長田俊樹様より「地域社会とSDGsについて」という演題で、SDGsを企業が取り組む重要性を、ビジネス視点から卓話を頂きました。SDGsでは、6項目目に「安全な水とトイレを世界中に」と掲げられております。

ターゲットとして、「2030年までに、すべての人々の適正かつ平等な下水施設・衛生施設へのアクセスを達成し、野外の排泄をなくす。女性及び女兒、ならびに脆弱な立場にある人々の

ニーズに特に注意を払う」として6つが掲げられております。

一方、現在は20億人が安全に管理された飲み水を使用できない。このうち、1億2,200万人は、湖や河川、用水路などの未処理の地表水を使用している。36億人が安全に管理された衛生施設を使用できない。またこのうち4億9,400万人は家や近所に利用できるトイレがなく、道ばたや草むらなど屋外で用を足す、屋外排泄を行っているそうです。また23億人が石鹸や水が備わった基本的な手洗い施設が自宅にない環境で暮らしているそうです。現在、世界の人口は78億人となっているので、この割合からすると、世界の4人に1人が何かしら、水と衛生で困っていることになっております。このところコロナウイルスが落ち着いてきて安心してありますが、やはり水を使った手洗い、うがいは感染症の対策の基本になります。とても重要なことだと改めて感じました。

ジェニファー・ジョーンズRI会長の代理として新井直前ガバナーが早瀬地区幹事と共に3月18日から3350地区にいかれます。併せて、日立RCのGGの方もいかれるということで、ご報告いただけることを楽しみにしております。新井さん、早瀬さんお気をつけ行ってください。

幹 事 報 告 神 山 芳 子 幹 事



○大野ガバナー事務所より

・薬物乱用防止指導員40周年事業
茨城新聞社主催

○ロータリー第2820地区より寄付
・新聞広告



趙龍賢米山奨学生へ奨学金の授与



こんにちは。米山奨学生の趙です。

デンマークで開催される学会の論文の仕上げの検討をしております。同時に就職活動も行っております。

外部卓話

サクソフォン奏者 小澤 瑠衣 様



神奈川県横須賀市出身。13歳より中学校の吹奏楽部にてサクソフォンを始める。

洗足学園音楽大学成績最優秀賞を受賞、並びにサクソフォン科を首席で卒業後、渡仏しセルジーポントワーズ地方音楽院にて満場一致の金賞・一等賞並びに最優秀賞を受賞。

パリ国立高等音楽院第二課程(マスター)サクソフォン科ならびに第二課程 室内楽科をサクソフォン四重奏(Ensemble Rayuela)として満場一致の最優秀賞を受賞し首席で卒業。

2020年、第三課程(新曲・現代音楽専科)修了。これまでに第89回国際コンクール Léopold

Bellan (Paris フランス) 最優秀賞、第4回国際サクソフォンコンクール(Dreux フランス)第2位、第28回日本管打楽器コンクールサクソフォン部門第2位入賞、第6回国際アンドラサクソフォンコンクール(アンドラ共和国)第3位、第7回国際アドルフサクソコンクール(Dinant ベルギー)にて女性史上最高位となる第2位を受賞。

ソリストとして神奈川フィルハーモニー管弦楽団、パリ警察音楽隊、パリ国立音楽院オーケストラ並びに吹奏楽と共演。

現代曲を専門に演奏するプロ団体アンサンブル アンテル コンテンポランのコンサートに多数参加、ソロ演奏も披露。

Parero Saxophone Quartet, Ensemble Fila Alba メンバーとして国内外にて活動。

これまでにサクソフォンを宗貞啓二、ジャン-イヴフルモー、クリストフ ボア、クロード ドウラングル、室内楽を池上政人、マリリーズフルモー、ダヴィッド ウォルターの各氏に師事。

クラシック サクソフォンの魅力

ジャズやポピュラー音楽で登場することが多いサクソフォン(サックス)ですが、クラシックサクソフォンには、また別の魅力がたくさん詰まっています。

サクソフォンは人の声色に近い音色と音域を持ち、ずっと心に寄り添えるそんな魅力的な楽器です。是非1度、生のクラシックサクソフォンをお聴きになってください！！





日本の自給率

武庫川団地フレンド薬局開設者 鄭 淳太氏

自給率を考える上で、まず押さえておきたい数字が、人口動態です。2021年の出生数は約81.1万人、22年は約77.1万人(見通し)と、ここ数年最少を更新しています。一方、死亡数は、21年は約143万人で20年より約6万人増加し、出生数と死亡数の差である自然増減数は約62万人の人口減少となりました。

続いて知っておきたい自給率は、日本の電力エネルギーについて。19年はわずか12.1%の自給率で、OECD36カ国中、35位。20年は11.2%と減少しています。電力エネルギーをつくるための原料輸入の割合が高くなっていたところに、コロナ禍、ウクライナの有事により、原料である石炭、石油、天然ガスの輸入に障害が起き、私たちの生活にますます支障を来しています。

そして、人間が生きていくために必要な食料の自給率。最も基礎的な栄養価である熱量に着目した、カロリーベースの食料自給率は、21年は38%となっており、他の先進諸国と比べても日本はとても低いです。カロリーベースの食料自給率は、国民1人1日当たりに供給している全品目の熱量の合計に占める国産の熱量の割合を計算したものです。

最後は、医療品の製剤原料の自給率です。医薬品は海外依存度が高く、ジェネリック医薬品においては、全ての製造工程で国内生産できる品目は、全体のわずか35%(18年)に過ぎません。国内での生産では、原材料費、設備費、人件費コストが高く、収益性が確保できないことから、諸外国に依存しています。調達先に何か起きればたちまち医薬品が手に入らなくなります。少なくとも重要な医薬品の原材料は日本で

製造できるようにする必要があります。

諸問題解決のため、産学官の連携強化による、今後の日本の底力に期待します。

【ロータリーの友3月号 卓話の泉より】

スマイルBOX 鈴木健一 副委員長

▶潮田 武彦さん サックス演奏者 小澤瑠衣様、本日の卓話楽しみに参りました。素敵な音色、楽しみにしております。宜しくお願いします。

趙さん、ようこそ下館RCへ。

▶神山 芳子さん 明るく愛らしい小澤瑠衣さんのおしゃべりとサックス演奏をお楽しみ下さい。

▶宮田 憲一さん 本日は、小澤様ようこそ！演奏、楽しみにしていました。宜しくお願いします。

▶新井 利平さん 小澤瑠衣さん、ようこそ。サックス演奏宜しくお願いします。

▶塚田 砂与さん サックス演奏者 小澤瑠衣様、宜しくお願い致します。

▶葉 章二さん 小澤様の演奏、楽しみにしております。

▶松浦 真也さん 小澤瑠衣様、本日はようこそお出で下さいました。宜しくお願い致します。

▶鈴木 健一さん 小澤瑠衣さん、ようこそ。演奏楽しみです。

本日の合計 38,000 円 累計 619,000 円

出席報告

会員数	出席数	欠席数	病欠	免除
22	12	5	1	4



ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理想を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある：

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理規準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理想を实践すること；
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。